

1. 教育の責任

解剖生理学 I、解剖生理学 II、病理学、解剖生理学 I 実習、解剖生理学 II 実習を担当

2. 教育の理念

「STUDY FOR LIFE」という本学の教育を踏まえ、管理栄養士が自身の未来や存在意義の可能性を広げることが出来るように、将来直面する様々な課題を自ら設定し、対応できる能力を養うことを教育理念とする。

3. 教育の方法

解剖生理学、病理学の特徴

管理栄養士養成課程の解剖生理学、病理学は実習の時間が少ないにもかかわらず、講義中で習得すべき知識量は膨大である。自分と関連の薄い、親しみのない知識をランダムに習得させることは、学生にとっては苦痛であることは容易に想像できる。この問題を解決するため、なるべく学生が親しみの持てる部分から授業をはじめ、理論的な理解をしやすいように誘導し、国家試験問題を適度に組み入れ動機付けを行いながら説明する。この際、ランダムな知識の羅列は最小限にとどめる。もし、ランダムな知識の習得がどうしても必要な時は、学生に対してその理由を説明し、なるべく無理なく知識が習得できるような教員側で教材を作成し、学生の負担を軽減する。ある程度、学生に基本的な知識が根付いて来たら、自分が得た知識を統合させるような課題（例えば疾患の診断）を与える。近年、病院等の医療機関に勤務する管理栄養士の扱う疾患は内科や外科的疾患ばかりでなく、精神科疾患にも及んでいる。この現実を踏まえ、これらの科目では、従来の内科や外科的疾患ばかりでなく、精神科疾患を扱うようにする。また、リハビリテーション部門の要請も近年増加していることから、特に嚥下関連のリハビリテーションに関する知識習得にも重きを置くことにする。

講義に関する工夫

講義に関しては、なるべく写真や図表を多用することにより、ともしれば単調な授業にメリハリをつけるようにする。また、症例を多数用いることにより、医学的な知識に少しでも親しみをもってもらうように工夫する。更に、授業の開始までに、授業プリントを el-Campus に掲示することにより学生が授業中にプリントを見やすいように、また、復習の際に役立つように配慮する。毎回の授業初めに、ミニテストを行って前回授業の復習をするするとともに、授業後に重要な点に関してレポート課題を課す。

4. 教育の成果

授業の出席状況、期末試験の成績、レポート課題の作成状況、授業アンケートを参考にする。

5. 改善への努力と今後の目標

親しみのない知識を効率よく習得させるために、ICT の技術を応用して、学生の負担軽減に努めたい。学生一人一人も人間であり、解剖生理学や病理学は自分や自分の家族と実は密接な関連があることを再認識させ、授業に対するモチベーション構築の足掛かりとしたい。

【添付資料】

非公開

スライド「ホルモン道場」「神経道場」学習用スライド

解剖生理学授業スライド（第 1 回から第 14 回）

病理学授業スライド（第 1 回から第 14 回）